

# 見る。感じる。体験する。

県境を越えた3市の広域観光ガイド

伝説編

## 平家の落人伝説マップ



四国まんなか交流協議会

### Access Map

**●車(高速道路利用)**  
 四国の玄関口より  
 神戸淡路鳴門自動車道 鳴門IC → 三好市内 約70分  
 高松自動車道 坂出IC → 観音寺市内 約25分  
 西瀬戸自動車道 今治IC → 四国中央市内 約60分

**<各市間の所要時間>**

	高速利用	一般道
三好市内 → 観音寺市内	約45分	約45分
観音寺市内 → 四国中央市内	約25分	約40分
四国中央市内 → 三好市内	約35分	約45分

**●JR**

	特急	普通
徳島駅 → 阿波池田駅	約75分	約125分
高松駅 → 観音寺駅	約45分	約80分
松山駅 → 伊予三島駅	約80分	約180分

平家の落人伝説マップに関するお問い合わせは・・・

**四国中央市**

四国中央市 経済部 観光交通課  
 〒799-0497 愛媛県四国中央市三島宮川4丁目6番55号  
 TEL.0896-28-6187 FAX.0896-28-6242  
<https://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/>

**観音寺市**

観音寺市 経済部 商工観光課  
 〒768-8601 香川県観音寺市坂本町1丁目1番1号  
 TEL.0875-23-3933 FAX.0875-23-3920  
<http://www.city.kanonji.kagawa.jp/>

**三好市**

三好市 産業観光部 観光課  
 〒778-0002 徳島県三好市池田町マチ2145番地1  
 TEL.0883-72-7620 FAX.0883-76-0203  
<http://www.city-miyoshi.jp/>

# Information

番号は、地図上で場所がわかるようになっています。

## 四国中央市

- 1 平家落人八百年記念碑**  
地図 [C-6]
- 2 金砂地区各集落(嶺南地域)**  
地図 [C-6]
- 3 富郷地区各集落(嶺南地域)**  
地図 [B-7]
- 4 真鍋家住宅**  
地図 [D-4]
- 5 安徳の窪・安徳の宮**  
地図 [D-4]
- 6 下谷八幡神社(上の宮・下の宮)**  
地図 [D-4]
- 7 土釜神社・土釜薬師**  
地図 [D-4]
- 8 院の墓**  
地図 [D-4]
- 9 刀石**  
地図 [D-4]
- 10 熊野権現社**  
地図 [D-4]

屋島の合戦に敗れ生き残った平家の残党は、銅山川流域やその他の奥地に逃れ山野を開拓し、古里京都の氏神を祀り又は地名まで用いて再起を誓って住みついたと言われている。

<上小川部落・平野部落など>  
 金砂地区には、金砂町平家踊り保存会により一族慰霊のための平家踊りが今も伝承されている。また、金砂地区の各集落には、落人にまつわる塚や落人七騎に由来すると言われる神社などがある。

<下猿田部落・上猿田部落・折宇部落・豊坂部落・戸女部落・葛川部落・中尾部落など>  
 富郷地区には、富郷町郷愛会により平家踊りが伝承されているほか、都の地名等が由来とされたり、安徳天皇を氏神として祀っている神社が多数建立されている。また、富郷地区の各集落には、長袖塚や弓置石のほか、金詰崖や惣兵衛谷など伝説が語り継がれる場所も多数存在する。中には平家に加勢した熊野衆が祖とされる集落もある。

建築は江戸時代中期(17世紀中頃)のものと考えられ、民家として全国的に見ても非常に古い遺構を残している。外観だけでなく特徴的な間取りを残す家屋内も見学可能。真鍋家は、切山平家伝説に登場する安徳天皇の守護に当たった五士の一人、平清房(清盛八男)を始祖とする家系と伝えられている。  
 ◎国指定重要文化財に指定されている。

切山に辿り着いた安徳天皇と五士の一行が、なおも安全な場所を求めて分け入り、仮の寓居を建てて半年間滞在したと伝えられる場所。周辺に点在する伝承地には平家遺跡保存会により碑が建てられたり、麓の下谷八幡宮横には「安徳の宮」がかさ上げされている。

五士の一行が安徳天皇を守護しながら滞在していた時、天皇の安全と一族の武運を祈り祀ったと伝えられている。上の宮は仲哀天皇と神功皇后を祀り、下の宮には応神天皇が祀られている。

安徳天皇と五士の一行が切山に辿り着き、最初に安堵した場所と伝えられている。土釜薬師は安徳天皇の安泰を祈り祀られたとされ、警備の要所だったとも言われている。

平家一門が壇ノ浦の合戦に敗れたとの知らせを聞いた切山の一族は、嘆き悲しみ、安徳天皇の御衣と御念持物を地中に埋めて仮の御陵にしたと伝えられている。また、切山の一族はこの地から瀬戸内海を眺めながら拝礼したと言われている。

下谷八幡神社下の宮にある高さ1.5メートルの自然石。左側の淵に沿って刀を置いたような溝があり、神器の一つである宝剣を石の上に置いた時にできたものとい伝えられている。

安徳天皇と五士の一行が阿波から山伝いに切山へ向かう途中で遭難しそうになり、五士の一人が背負っていた熊野権現に祈念したところ、途端に光明が輝き、無事に切山の土釜に辿り着いたと伝えられている。そのことに感謝し、社を建てたとされている。

## Shikokuchuo

金砂町平野山(平野橋付近)  
 [JR伊予三島駅から車で25分]

金砂町平野山・小川山地区内  
 [JR伊予三島駅から車で30分]

富郷町寒川山・豊坂  
 ・津根山地区内  
 [JR伊予三島駅から車で45分]

金生町山田井2030-2  
 [JR川之江駅から車で25分]

金生町山田井切山地区内  
 [JR川之江駅から車で45分]

金生町山田井切山地区内  
 [JR川之江駅から車で45分]

金生町山田井切山地区内  
 [JR川之江駅から車で40分]

金生町山田井切山地区内  
 [JR川之江駅から車で40分]

金生町山田井切山地区内  
 [JR川之江駅から車で45分]

金生町山田井切山地区内  
 [JR川之江駅から車で45分]

## 観音寺市

- 1 阿弥陀堂・阿弥陀如来像**  
地図 [E-4]
- 2 三部神社**  
地図 [E-4]
- 3 野都合(のつごう)**  
地図 [D-3]
- 4 野都合神社**  
地図 [D-3]
- 5 有盛路**  
地図 [E-4]
- 6 琴弾八幡宮**  
地図 [D-2]
- 7 琴弾八幡宮・木の鳥居**  
地図 [D-2]

平家敗軍の武士に左衛門尉某がこの地を開いて樵夫を業となし、心を仏の道に傾き、食事を節し、寒暑に堪えて貯えたとお金で御堂を建て、阿弥陀如来の尊像を設置してこれを祀っている。  
 ◎県指定有形文化財に指定されている。

「生駒記」に「姫郷の内、有木村という山家村あり、(中略)昔元暦の戦い終わりて、小松の少将有盛、隠居たる由、此村に三宝荒神、産土神とす云々」とある。

平家の落人が物見の櫓を組み、常時三人の物見の者を置いた場所。後にその三人を葬った場所とされている。

平家が屋島の合戦に敗れて長門国へ逃げる時に、平清盛の孫、知章の重臣であった左衛門佐重忠の船が本隊から離れてしまい、山田の沖にさしかかり漂着し、船から見えた櫓の大木のところにたどりついたが、翌朝には命果てていた。土地の人々はその霊をあわれみ、一族の墓をつくり「賢靈塚」と名付けて極楽往生を念じ、櫓の老木を含む神域を「野都合神社」としてあがめたとされている。

落ちのびる平有盛一行が、有木へ逃れる際に通ったとされる道。

曲亭馬琴作「椿説弓張月」巻五の舞台となったところ。源為朝を訴人した武藤太に為朝の妻白縫が復讐を行う話である。

神楽院蔵「弘化録」によると、屋島の合戦が終わった後、源義経は琴弾八幡宮に参詣し、平家追討の願文を捧げ、望月と名付けた神馬を一匹八幡宮に奉納している。また、義経奉納の木の鳥居もある。

## Kanonji

大野原町有木481  
 [JR観音寺駅から車で30分]

大野原町有木478  
 [JR観音寺駅から車で30分]

柞田町乙3041  
 [JR観音寺駅から車で10分]

柞田町乙3041  
 [JR観音寺駅から車で10分]

大野原町有木乙299-3地先  
 [JR観音寺駅から車で25分]

八幡町1丁目甲3883-2地先  
 [JR観音寺駅から車で5分]

八幡町一丁目1番1号  
 [JR観音寺駅から車で5分]

## 三好市

- 1 阿佐家住宅(平家屋敷)**  
地図 [G-8]
- 2 鉾杉**  
地図 [G-7]
- 3 栗枝渡八幡神社(安徳天皇御火葬場)**  
地図 [G-7]
- 4 重末の八幡神社**  
地図 [F-7]
- 5 祖谷のかずら橋**  
地図 [F-7]
- 6 奥祖谷二重かずら橋**  
地図 [I-8]
- 7 剣山**  
地図 [I-8]
- 8 平家の馬場**  
地図 [I-8]
- 9 刀掛けの松**  
地図 [I-8]
- 10 地福寺**  
地図 [G-5]
- 11 馬岡新田神社**  
地図 [G-5]
- 12 琵琶の滝**  
地図 [F-7]
- 13 平家屋敷民俗資料館**  
地図 [F-7]
- 14 武家屋敷旧喜多家**  
地図 [G-7]
- 15 東祖谷歴史民俗資料館**  
地図 [G-7]

平国盛直系の子孫の屋敷と伝えられる「阿佐家住宅」は古くからお屋敷(平家屋敷)と呼ばれ、「平家の赤旗」と呼ばれる大小二流の旗などの貴重な歴史資料が所蔵されている。  
 ◎屋敷一帯が県指定有形文化財、平家の赤旗が市指定有形文化財に指定されている。

平家の守り神である鉾を根元に埋めたと伝わる杉。国盛杉とも呼ばれる。樹齢は約800年余りと推定され、幹周り約11m、樹高約35mある県下唯一の杉の名木で、神秘的な空間の中に樹枝整然と立っている。  
 ◎県指定天然記念物に指定されている。

祖谷山にある神社の総鎮守。文政2年(1186)この地で崩された安徳天皇を御火葬で清め奉ったといわれ、御神体として位牌が祀られている。拝殿の右手、境内の静かな場所に御火葬場がある。  
 ◎御火葬場が市指定史跡に、八幡神社の祭礼用衣装が市指定有形民俗文化財に指定されている。

江戸時代の寛保年間、東祖谷の栗枝渡八幡神社は火災に遭った。安徳天皇の御遺骨は消失をまぬがれたが、祖谷政所の喜多源内は再び災難にあうのを恐れ、御遺骨を自らの居住地だった西祖谷山村の重末に遷座し、重末八幡宮に祀ったとされている。  
 ◎八幡神社に奉納される獅子太鼓が市指定無形民俗文化財に指定されている。

平家一族が追っ手から逃れるために、いつでも断ち切れる蔓(カズラ)で橋を作ったのが始まりといわれている。現在も蔓橋は、シラクチカズラと呼ばれる希少な植物で作られており、伝統的な技術で架け替えが受け継がれている。長さ約45m・幅約1.5m・高さ約15mの吊橋で、日本三奇橋にも選ばれる。  
 ◎国指定重要有形民俗文化財に指定されている。

平家一族が剣山。平家の馬場での訓練に通うため架設したといわれている。男橋は長さ約44m・幅約2m・高さ約12m、女橋は長さ約22m・幅約1.5m・高さ約4m。かずら橋が2本並んで架かっているため、通称「男橋・女橋(おぼし・めぼし)」とも「夫婦橋(みょうとぼし)」などとも呼ばれている。

安徳天皇が「草薙の剣」を剣山の頂上にある高くそびえる大岩に納め、平家一同の盛隆を祈願されたという伝説からこの名が付いたとされ、山岳信仰の霊山として広く知られている。  
 ◎一帯は剣山国定公園に指定され、学術的にも貴重な植物があり、標高1,700m以上は県の天然記念物に指定されている。

剣山山頂付近はなだらかな草原となっており、東西約500m一帯を平家の馬場と称している。その昔、平家の落人たちが平家再興を願って、馬の訓練を重ねた所と伝えられている。  
 ◎市指定史跡に指定されている。

安徳天皇が剣山登頂途中の休息時に「草薙の剣」を持った従者に目をとめ、顔中に汗が流れているにもかかわらず、拭うこともせず威儀を正している姿を見て、剣を置いて汗を拭くよう声をかけたが、従者はとまどいたためらったため、安徳天皇は、剣を縁起のいい松の木に掛けて汗を拭くように言葉かけたと言われている。

屋島の戦いに敗れた平家盛(のりもり)の次男国盛は、幼弟安徳天皇を奉り阿讃山脈を越え安徳天皇を守護して地福寺にしばらく逗留し、大小二流の赤旗を残して祖谷の地をめざして落ちのびて行ったと言われている。平家の赤旗のレプリカが井川ふるさと交流センターに展示されている。

屋島の合戦に敗れて当地に落ちて来た安徳天皇の分霊を合祀し、馬岡大明神と称したと言われている。  
 明治時代には郷社と格付けされた。  
 ◎神社境内にある大杉は、市指定天然記念物に指定されている。

平家落人が京の都をしのび、この滝で琵琶を奏で、つれづれを慰めあっていたことから名付けられたとい伝えられている高さ約50mの滝。

安徳帝の御典医、堀川内記の子孫代々の屋敷といわれ、古い茅葺き民家をそのまま活用した館内には、鎧・旗・古文書・生活用品などが展示されている。堀川内記は、平家滅亡の折に一族とともに入山し、粟草の豊富な祖谷の地で、医薬と神官を務めた人物といわれる。庭には、老樹や古い土蔵もある。  
 ◎「西岡家住宅 主屋 土蔵」として、市指定有形文化財に指定されている。

宝暦13年(約250年前)に建てられた祖谷地方でも最も大きな武家屋敷で、屋島の戦いに敗れた平氏一族が落ちのびたと言われる東祖谷山村大枝集落に近く、現在の屋敷は鉾杉の近くに移築されたものである。  
 この平家の里の名主であった「喜多家」は、祖谷の上層階級の武家屋敷である。庭先には「鉾杉」もある。

奥祖谷の歴史に雅やかな文化をもたらした平家一族がこの地に残したといわれる貴重な歴史資料や奥祖谷の人々の昔ながらの暮らしが感じられる民俗資料が展示してある。平国盛直系の阿佐家に伝わる平家の赤旗のレプリカなども展示されている。

## Miyoshi

東祖谷阿佐  
 [JR大歩危駅から車で60分]

東祖谷大枝  
 [JR大歩危駅から車で60分]

東祖谷栗枝渡  
 [JR大歩危駅から車で70分]

西祖谷山村重末  
 [JR大歩危駅から車で35分]

西祖谷山村善徳  
 [JR大歩危駅から車で25分]

東祖谷養生  
 [JR大歩危駅から車で100分]

東祖谷養生  
 [JR大歩危駅から車で120分]

東祖谷養生剣山山頂  
 [JR大歩危駅から車で120分]

東祖谷養生剣山中腰  
 [JR大歩危駅から車で120分]

井川町井内東2375  
 [JR辻駅から車で15分]

井川町井内東22  
 [JR辻駅から車で15分]

西祖谷山村善徳  
 [JR大歩危駅から車で25分]

西祖谷山村東西岡46  
 [JR大歩危駅から車で10分]

東祖谷大枝43  
 [JR大歩危駅から車で60分]

東祖谷京上14-3  
 [JR大歩危駅から車で45分]

このマップは一定の調査を元に制作をしておりますが、歴史認識と人物評価には多様な考え方があるため、異なる認識をお持ちの場合はご容赦ください。

# 平家の落人伝説マップ

伝説編

今日、日本各地において平家の落人伝説が伝承されています。平家の落人(へいけのおちうど)とは、源氏と平家が対決した源平合戦で一ノ谷の戦い、屋島の戦い、壇ノ浦の戦いにおいて平家方が連戦連敗を繰り返した中で発生した平家方の難民であり、残党の追捕から逃れた者が落人となって各地に潜んだことから様々な伝承が伝えられるようになりました。

徳島県三好市、香川県観音寺市、愛媛県四国中央市の3市にも伝承されている平家の落人伝説が数多く残っています。

**四国まんなか交流協議会とは...**

四国のちょうど真ん中に位置する徳島県三好市、香川県観音寺市、愛媛県四国中央市の3市が、県を越えたネットワークの確立や県境における四国中央地域の活性化を目的とするため、平成20年より協議会を設置しています。

~この地図の見方~

**凡例**

- 県境
- 市境
- 町境
- 村境
- 境界線
- 道路
- 主要道路
- 地方道路
- J道
- R道
- 駅

3km

**すずきヶ原入野公園** 各市施設名・観光地

**1 阿佐家住宅(平家屋敷)** 案内面に掲載の三好市の平家ゆかりの地

**1 阿弥陀堂・阿弥陀如来像** 案内面に掲載の観音寺市の平家ゆかりの地

**1 平家の落人ゆかりの地** 案内面に掲載の四国中央市の平家ゆかりの地

